

Course number	U-LAS00 20003 LJ34				
Course title (and course title in English)	人間実践論 I Philosophical Theory of Human Acts I		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Human and Environmental Studies Professor, SATOU YOSHIYUKI	
Group	Humanities and Social Sciences		Field(Classification)	Philosophy(Issues)	
Language of instruction	Japanese		Old group	Group A	Number of credits 2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters 2025・First semester
Days and periods	Mon.4	Target year	2nd year students or above		Eligible students For all majors

(Students of Faculty of Integrated Human Studies cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)

[Overview and purpose of the course]

フランスの現象学者メルロ＝ポンティは、もっぱら知覚論や身体論において、主体の事実にあり方、主体によって生きられた世界の姿について、斬新な見解を示した。『知覚の現象学』の時期の彼の思想の流れを知覚論、身体論を中心にたどってゆきたい。

[Course objectives]

メルロ＝ポンティを通じて、知覚論、心身問題を中心にした哲学の代表的な議論を学ぶ。そのことで哲学的なものの見方を習得する。

[Course schedule and contents]

総題：メルロ＝ポンティの思想

(1) 現象学とは何か

現象学という立場 (第 1 ～ 2 回)

(2) 身体:世界に住み込む、意味により組織化された身体

身体の謎ー導入 (第 3 回)

機械的身体観と現実の身体 (第 4 ～ 5 回)

身体図式 (第 6 回)

実践の主体としての身体ーハイデガーを手がかりに (第 7 回)

身体の主体と身体 (第 8 ～ 9 回)

実存と事実性 (第10回)

(3) 実存による知覚

古典的知覚観批判 (第11回)

実存による知覚 (第12回)

(4) 他者と間身体性

サルトルの他者論 (第13回)

メルロ＝ポンティの他者論 (第14回)

フィードバック：詳細は別途連絡する (第15回)。

Continue to 人間実践論 I (2) ↓ ↓ ↓

人間実践論Ⅰ(2)

[Course requirements]

哲学・思想系の基礎論科目のなかから「哲学」、「倫理学」、「論理学」、「西洋社会思想史」、「科学論」、「宗教学」のどれかひとつ以上を履修済みであり、すでにこの種の学問に触れて基本的な考え方についておおよその知識を持っていることが望ましいため、一回生の受講は原則的に認めない。

[Evaluation methods and policy]

授業に関連するレポートを2回提出してもらう予定であるが、そのレポートによって評価する。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

(References, etc.)

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

関心のある者は、授業中に紹介した参考書を読んで、自ら学習を深めてほしい。

[Other information (office hours, etc.)]

受講希望者多数の場合は抽選により受講者を制限することがある。